

(再開 午後2時25分)

議長（勝山 正）

休憩前に引き続き会議を開きます。

4番 山本議員。

(「はい、議長。4番。」の声あり)

(4番 山本隆樹 議員 登壇)

1. にぎやかな過疎村へ

4番 山本隆樹 議員

では、通告に基づき、2点質問いたします。

2点とも地域活性化、活動人口を増やそうよという質問となります。2点ともちょっと類似した点もあるかと思いますが、ご了承ください。

1点目、賑やかな過疎村へ。

木島平を「にぎやかそ」ということで、1年前にも質問しました。人口減少の課題に対しては即効薬はなく、地道な積み重ねで関係人口を作り上げ、木島平村とのパイプを持つ人材を増やし、賑やかにしていくことだと思っています。

北信濃新聞の新年度の所信で、村長も、観光地が賑わい、子供で賑わう村にするとして、賑わいを掲げました。そこで、賑わう村、活性化への取組について質問いたします。

1番目、観光で賑わう村として、スキー場も民営化でスタートしました。スタートしたばかりですが、観光施設の民営化による現状と課題をどう捉えましたか。

また、今後、滞在型観光の充実を挙げ、スキー、温泉による誘客に向けた環境整備など検討しています。この環境整備とはどういうことを指しているのか。

2番目として、子供で賑わう村。

3番目として、農業で賑わう村。

どんな取組を目指そうとしているのか伺う。

議長（勝山 正）

日碁村長。

(村長「日碁正博」登壇)

村長（日碁正博）

先ほど、新聞では賑わう村ということですが、これについては、希望を込めたものであります。4年間本当に新型コロナで沈滞したムードを、何とかこの機会にやっぱりもっと活気を取り戻したいとそんな願いを込めて書いたものであり、述べたものであるというふうにご理解いただきたいと思います。

「令和6年度の取組をどのように進めるか」というご質問ですが、令和6年度予算編成方針の重点施策については、度々申し上げますとおり、少子化対策の推進、2050ゼロカーボン社会に向けた村づくりの推進、デジタル化社会に対応した村づくりを大きなテーマとして各種施策に取り組んでいきます。

ご質問の「にぎわう村をどのように進めるか」ということですが、まず、農村環境の中で滞在できる資源をしっかりと整備していくことを考えております。これは現在も進めておりますが、アクティビティを更に充実するために、スキー場のみならず、クロスカントリースキーなど多様なスキーが楽しめる環境づくり、また、かつて使われてきた「古道」昔の道とか、新たなトレイルの検討など、そしてまた再生する馬曲温泉と併せて、この村で滞在できる環境づくりを進めていければというふう考えております。

あわせて、郷の家については、今後インバウンドにも活用できればと考えております。
農業関連では、新規就農者の受入れの充実を進めております。
いずれにしましても、移住定住対策と併せて、人が交流し関係を作りながら木島平のファン作りを進め、賑わいを作ってまいりたいというふうに考えております。
細部について教育長に答弁をさせます。

議長（勝山 正）

関教育長。

（教育長「関 孝志」登壇）

教育長（関 孝志）

それでは、私からは2番目の「子供で賑わう村、どんな取組をしていますか」ということでお答えしたいと思います。

現在、おひさま保育園には118名、小学生219名、中学生107名、計444名の子供たちが在園在籍をしています。昨年と比較すると、保育園、小学校、中学校それぞれ人数は異なりますが、合計444名この1年間増減はありません。それでも日常的に、子供たちの姿を見かけることがだいぶ少なくなってきたような状況です。

子供で賑わう村として常に子供たちの顔の見える機会は、大人たち自身も楽しみながら子供たちと一緒に活動できる機会を意図的に作っていくことが必要だと考えています。

教育委員会では、学校が地域と協働しながら子供たちを育てていく仕組みとして、学校運営協議会、コミュニティスクールを設置しています。このメンバーには、小学校、中学校、下高井農林高校の校長先生方、保育園長、社会教育委員さん、小中学校のPTA会長さん、区長会長さん、育成会長さんや老人クラブ連合会長さんなど20名ほどのメンバーで構成されています。そこには、教育委員さんもオブザーバーとして参加しています。

それで、「ふるさと木島平を担う子供たちを地域総ぐるみで育てましょう」という合言葉で活動しています。子供たちには、郷土愛と誇りが生まれるように、木島平で出会う「ひと・もの・こと」への出会いと体験的な活動をできることへ支援をしています。

具体的には、子供たちが小中学校で行っている「ふるさと学習」であるとか、生涯学習講座への参加、ボランティア活動への参加、各地区の行事への参加、イベントへの参加、地域の住民の方々との交流等々、委員の方々のお知恵をお借りして、学校だけではなく地域においても子供たちが参加できる活動を作り出したり、活動への支援を行ったりしています。子供たちを支援することで、多様な方々との出会いや体験が学ぶ機会を作っていく、そして子供たちはいろんな活動に触れていく。子供たち自身の自己肯定感や積極性にも繋がっていくものではないかなというふうに思っています。

議長（勝山 正）

山本議員。

再質問

4番 山本隆樹 議員

今、回答の中で、スキー場も民営化でスタートして、スタートしたばかりですけど、民営化による現状と課題っていうのをどういう形で捉えているのか、ちょっと回答がなかったので、今まで出てきた中の総まとめになっちゃうかもしれませんが、お答えお願いいたします。

議長（勝山 正）

湯本産業課長。

(産業課長「湯本寿男」登壇)

産業課長（湯本寿男）

今、再質問で「スキー場の民営化に伴う課題」というご質問でございまして、今までのお話でもありましたように、民営化によって今までやってきた事業がやらなくなったですとか、方針が変わったってところが課題といえは課題かと思っております。

議長（勝山 正）

山本隆議員。

再質問

4番 山本隆樹 議員

あと質問の中で、農業で賑わう村の回答も、ちょっと聞こえてこなかったんですが。

議長（勝山 正）

湯本産業課長。

(産業課長「湯本寿男」登壇)

産業課長（湯本寿男）

先ほど村長の答弁にも少し触れましたけれども、農業関連では新規就農の受入れの充実を進めてまいりますというところで、移住定住対策と併せて、人が交流し関係を作りながら、木島平のファン作りを進め、賑わいを作ってまいりたいと考えておりますというところでございます。

議長（勝山 正）

山本議員。

再質問

4番 山本隆樹 議員

ここから再質問ということで、質問いたします。

観光で賑わう村っていう中で、今、木島平村っていうのは本当に姉妹都市、それと友好都市、提携大学など、村外との繋がりを本当に大事に築いてきました。いろんな地域と繋がっていることを改めて意識して、これから働きかけていこうじゃないかと、そういうことによって今までやってきた交流事業が磨き上げられ、賑わっていくっていうふうに思います。

それで、問題は受け入れる側の活動人口というか、活性化、これが賑わう原点です。その中で受入れ側の村、観光振興局、農業公社、各団体のもてなしが、その木島平ファンとなって関係が続いていくと思うんですね。

それで受入れ側としても、例えば観光振興局と農業公社、これも観光、農業観光としたり、そういう話合いは、その共同作業っていうのをこれからの受入れとして、観光振興局と農業公社、そういう形で協働にこれからの未来を話し合っていくっていう、そういう話合いを持ったことがあるんでしょうか。そのときに集落支援員も大切な、なんていうんですか、要因だと思うんですね。その辺の話合いついていうか、そういう場を設けているんでしょうか。

議長（勝山 正）

湯本産業課長。

(産業課長「湯本寿男」登壇)

産業課長（湯本寿男）

今、「観光振興局と公社の受入れ側としての合同の話合いの場」というお話でございました。

それぞれ農業振興公社と観光振興局については、今の時点、重なっている部分の事業もございましたけれども、それぞれ目的を持って事業をしております。同じ土俵で会議を持つ場合は、今のところございません。

ただ、やはり繋がりが出てきますので、その辺での事業の打合せですとか、例えば姉妹都市・調布市にあります新鮮屋の関係で、農業振興公社が今店舗を運営お願いをしておりますけれども、そういったところでイベントをやるといふところにも、観光振興局と合同で行ったりはしておりますので、そういった部分では連携を取りながら事業を進めているところであります。

議長（勝山 正）

山本議員。

再質問

4番 山本隆樹 議員

いや本当にもっと何て言うのかな、真剣に本当に村の受入れ、これからみんなこの地域も競争なんですよね。やっぱり観光振興局というのは大事だし、農業公社なんて特に村としても大きな役割を担ってくれているので、本当にそういう連携をとって進めていこうっていう形でのやる気を示さなければ、やはり大きな、なんていうんですかね、賑わいっていうか、受入れとして、やはり来てくれる人も本当にもてなしとして、これからの木島平を好きになって、木島平ファンが増えていくっていうふうに思います。

これは今言ったようにお願いしていきたいということと、もう一つ、観光で賑わうふるさと納税っていうその視点なんですけど、ふるさと納税については、農産物やお酒、マッサージチェアがその今の主な商品ということです。それ以外に目玉商品がなく、伸び悩んでますという回答です。これはね、観光滞在観光の一部です。

議長（勝山 正）

質問中申し訳ないんですけど、通告からちょっと外れているような気がします。

4番 山本隆樹 議員

いや、そういうことじゃないです。これ観光の賑わう一つの課題だと思っています。違いますか。

議長（勝山 正）

もっとそういうことの内容で話していただいた方が、ちょっと遠回りしすぎちゃっているんで。

4番 山本隆樹 議員

そうですか。

賑わうってことで、その滞在観光の一部として、美容クリニックのふるさと納税っていう働きかけをしているのか、これは観光、美容、健康村としての賑わう糸口になると僕は信じています。

これ関係ない話ですかね質問ですかね。

議長（勝山 正）

環境整備について質問されているんだけど。

4番 山本隆樹 議員

観光で賑わう村を作り上げようっていう中の質問だと思っています。

議長（勝山 正）

その検討するについて環境整備とはどういうことかって質問されているんで、それについて答弁されているんだけど、今度、違う部門が入ってきたりしているんで。

4番 山本隆樹 議員

違いますか。

議長（勝山 正）

振興局の話とか、農業振興公社とかの話が入ってきて。

4番 山本隆樹 議員

いや、観光で賑わう村についての私は質問をしているわけで、そこで、一つの滞在型観光としては大きなふるさと納税の、その美容クリニックのふるさと納税っていうのは、大きな賑わう一つのテーマだと思っていますが、その質問は、今の私の関連の質問ではないということですか。

議長（勝山 正）

そう捉えると思います。だから、あの全体の中で説明の中で通告の中でね。ちょっとすみません。ここで暫時休憩とします。

(休憩 午後2時42分)

(再開 午後2時52分)

議長（勝山 正）

休憩前に引き続き会議を開きます。

再質問

4番 山本隆樹 議員

木島平も観光、美容、健康村として賑わう糸口を探しています。その中で良いアイデアはないでしょうか。その中の一つとして、ふるさと納税が、美容クリニックのふるさと納税があると思うんですが、いかがでしょうか。

議長（勝山 正）

本山産業企画室長。

(産業企画室長「本山 等」登壇)

産業企画室長（本山 等）

ただ今議員から「ふるさと納税のメニューの一つとして、美容医療、このサービスを商品にできないか」というようなお話、ご質問をいただきました。

そういった商品をふるさと納税で提供することは可能です。村といたしましても、そういったメニュー魅力に感じておられて、昨年の10月になりますが、その事業者の方にふるさと納税への登録を打診をいたしました。いたしましたが、今のところまだ登録にはなっておりません。これは事業者の方のご都合、それからお考えもあろうかと思えます。そういったことで村といたしましては、引き続き登録の方を促してまいりたいと考えております。

議長（勝山 正）

山本議員。

再質問

4番 山本隆樹 議員

本当に観光的に賑わうふるさと納税の一つの提案だと思いますので、引き続き要望していただきたいと思います。

子供で賑わう村ってということで今お話ありましたが、その一つの、ファームス木島平への施設の誘致として、子供が遊ぶ中で、健康増進となる遊具の取り入れをして天候に左右されない施設、それと近隣市町村との触れ合いの場、大きな立地点だと思うんですが、そこへの子供の遊具の取り入れというのはできるのでしょうか。検討されるのでしょうか。質問いたします。

議長（勝山 正）

本山産業企画室長。

（産業企画室長「本山 等」登壇）

産業企画室長（本山 等）

「道の駅に、子供の遊び場として遊具が設置できるのか」ということですが、昨年、再整備検討委員会を組織いたしまして、道の駅に必要な機能の取りまとめをまいりました。その結果といたしまして、天候に左右されない子供の遊び場を確保するという事で、屋外の遊び場、それと施設内の遊び場、一体的に遊べる、寛ぐことができる場を設けることを、道の駅の一つの機能として定めております。遊具が設置できるかどうかにつきましては、今後、具体的に検討してまいりたいと思います。

議長（勝山 正）

山本議員。

再質問

4番 山本隆樹 議員

では、農業で賑わう村ということで、調布市民とのグリーンツーリズムは今も実施しています。そして、それを充実するためにも、調布市との健康村が木島平にあるよってということで、調布市の健康村として位置づけて、農業を通しての健康と食の交流を更に深めていただきたいと、そういう中で、前もちょっと話したことあるんですけど、一つの案として、その都市部の農業に関心のある皆さんとの交流の中で、遊休荒廃地を活用して、山菜の栽培等で賑わせるっていう案というのはできないのでしょうか。

議長（勝山 正）

湯本産業課長。

（産業課長「湯本寿男」登壇）

産業課長（湯本寿男）

「姉妹都市・調布市等の交流事業の中でグリーンツーリズム」というお話がありました。

今、村として、交流事業として農業関連で行っている事業とすると市民農園、それと田植え体験で

すとか稲刈り体験のツアーを実施しております。

議員ご提案の山菜の件についても、大変有効な対策だとは思いますが、実際、山菜を育てていただける方等もやっぱり必要になってきますので、そういった可能性も少し農業振興公社の荒廃地対策ですとかと併せて、可能であれば検討していきたいなと思っております。

ただ、農業分野に限らずやはり交流については新たに、ぶなの森、カヤの平でぶなの植樹とかも調布市に限らず交流しているところもございますので、全体で見て交流が広がっていくような事業として取り組んでいければというふうに考えております。

議長（勝山 正）

山本議員。

再質問

4番 山本隆樹 議員

それと、今農業の関係では、農業振興公社集落支援員が発信している「味噌作り体験会」、これについてはもう実施して、農業振興公社が主催で進められました。もう一つ集落支援員の人から、今「土から考える畑の教室」というのが今発信されています。これは個人の発信でも、集落支援員の方からそういう形でふう太ネットにも流れて、そういう活動人口の一つだと思うんですけど、そういう方への支援というのは村としてはどう考えているのでしょうか。

議長（勝山 正）

丸山総務課長。

（総務課長「丸山寛人」登壇）

総務課長（丸山寛人）

「集落支援員へのいわゆる支援」という形になるご質問かと思えます。

集落支援員、当然集落支援員として報酬を支払っているほかに、活動費そのものも事業の中で見ているケースもございます。ご指摘のご質問については、支援員の個人的な活動という位置づけもございますので、行政として、そこに支援することは現時点計画はしてございません。

ただ、支援員の方がこういった活動をやりたいとか、こういう活動を進めたいというような内容で相談があれば、活動費等の支援の対象にはなるかと思えます。

議長（勝山 正）

山本議員。

2. 第6次総合振興計画の対応と検証

4番 山本隆樹 議員

これから本当にそういう活動をしてくれる人が村にもどんどん出てきて、大きな賑わいをしてきて、村の一つの何かのきっかけになればと思います。そういう形でしっかりと報告したり、村への報告すれば支援にも繋がるというふうに理解しました。

1つ目の質問は終わらせていただいて、2番目の第6次総合振興計画の対応と検証という形で質問させていただきます。

第6次総合振興計画の検証をされ、第7次総合振興計画へと現在進められています。大変よく考えられた第6次総合振興計画だと思っています。その中の村づくり集会の提案の手法として、一つ一つの課題に対して、提案の背景、効果、実現の可能性や、実現に当たってのハードル、実現を支援してくれそうな窓口、行政、民間でも良いというように、具体的で実現できる計画づくりをした取組です。

よく出来上がった計画案です。

「農村を生きる～みんなで楽しみを作り出す村～」へとチャレンジしてきたと思っています。その「村づくり集会への提案」は検討されたのか、提案の一部をちょっと括ってみたんですが、その一部をちょっと確認したいと思って、3点挙げています。されてなければ、どういう事情でされなかったのかを伺いたいと思っています。

一つ、暮らしチームで提案した「村を知る検定とウォーキングマップづくり」。

2番目に、自然チームで提案した「花いっぱい・元気いっぱい活動」で、村の花、永遠の幸せとしての福寿草の認知と維持管理し広めたいという取組。

3番目の産業チームで提案した「若者の働く環境づくり」が取り上げられ、村営で「仕事大学校」で学ぶ場を作り、Uターン/Iターン、移住者に受け入れられるのではないかとの取組が提案されています。この対応についてどうされたのか伺いたい。

議長（勝山 正）

日墓村長。

（村長「日墓正博」登壇）

村長（日墓正博）

第6次の総合振興局につきましては、4つの基本目標と30の施策が明記されておりまして、第7次の総合振興計画については、その内容を検証しながら進めております。そしてまた、その中に具体的に各チームからご提案をいただいたものについてあるわけではありますが、進捗状況については様々であります。第7次の総合振興計画の策定については、アンケートや各団体等の皆様から寄せられた意見を反映できるよう策定してまいります。

ご質問について総務課長から答弁をさせます。

議長（勝山 正）

丸山総務課長。

（総務課長「丸山寛人」登壇）

総務課長（丸山寛人）

それでは、村長の答弁に補足してご質問にお答えいたします。

第6次総合振興計画策定時の「みんなの村づくり集会の提案」は、村民と役場職員で構成された5つのチームから各種の活動が提案されております。

振興計画の30の施策については目標等が明記されており、検証もしておりますので、提案された活動が施策と関連するものについては、検証されている部分もあると考えております。それぞれの提案について、実施体制の整備や進捗管理、効果検証は、具体的には実施をしておりません。提案された活動の具体的な実施主体や目標などが位置づけられなかったことが、検証に至らなかったことと考えております。

3点の提案についての検討の状況でございます。

1点目のものでございますが、提案においては、ウォーキングマップを作る過程で検定を作成する内容となっておりますが、現時点あるマップは観光振興局が独自に作成したものでございます。今後のマップ作りにおいて、文化財等の資料の落とし込みや健康づくりを位置づけたマップが作成できるかどうか、関係者で調整を進めてまいります。

2点目のご質問でございますが、試作中の農村の原風景と環境保全の推進に関連するかと考えております。具体的な実施には現時点至っておりません。

3点目のものでございますが、それぞれ商工業の振興と新しい産業の創出、農業の6次産業化の推

進と働く場の確保、移住定住の促進と移住定住の推進と、それぞれの施策等関連するかと存じております。村営「仕事大」は、実施に至っておりませんが、「Uターン／Iターン企業制度」については、実際に移住者で創業希望する方へ、村から創業支援金の交付等の取組を実施しております。

議長（勝山 正）

山本議員。

再質問

4番 山本隆樹 議員

第6次総合振興計画の策定の期間は2年かけています。みんなの村づくりの集会は1年半かけ、本当に14回の集会を開いてまとめ上げたものなんです。本当に村づくりの集会からの提案については、本当によく具体的にできている。それを考えるとね、村の基本計画の施策27「村民と協働による村づくりが取り上げられ、政策情報室が担当となり、村づくり集会等により村民と行政が一緒になり、政策実現に向け検討を行う」とちゃんと明記されているんですよ。で10年かかっているんです。

それはそういう形で出来ていないってあまりにもその中で、今みたいな返事っていうのは、返答っていうのはおかしいと思うんですけど、それについてお答えをお願いいたします。

議長（勝山 正）

丸山総務課長。

（総務課長「丸山寛人」登壇）

総務課長（丸山寛人）

今ご指摘のいただいた、いわゆる「村づくり集会の提案」でございます。

先ほども申し上げたとおり、5つのチームから各種活動の提案がございます。その中で一番問題となるのは、誰がやるのか、何を目的にするのか、そういった位置づけが残念ながら位置づけられてないという形であります。

ご指摘の内容、いわゆる村づくりについては、地区の集落懇談会等も当然その一つでございますし、広報広聴という観点から進めるものであるかなというふうに思います。10年かかっているという形ではございますが、関連する施策については当然進めてまいっておりますし、検証もしております。したがって、この提案だけを検証するってことは、なかなか実施主体が具体的に明示されてない以上、それから目的が明記されてない以上、どうやって検証していくのかということが非常に問題かというふうに思います。

今後の計画については、こういったより具体的な目標を設定していく振興計画の作成をしていきたいと思っております。

議長（勝山 正）

山本議員。

再質問

4番 山本隆樹 議員

その当時基本計画は、前期5年間、後期5年間と検証していくとしてスタートしました。

基本計画の推進では、開かれた村政と村民企画の推進を村政運営の基本とします。計画期間中は、事業の達成度や時代潮流の変化を確認するために、計画が進捗しているのか検証を行うための組織や、

コーディネーター役の配置などを行い、随時点検と見直しを行いますという形でちゃんとした、できなかったらいけないよっていう形でね、ちゃんと進められているんですよ、本当に。これを本当にね、しっかりとした作り上げられた第6次総合振興計画だと思うんですよ。これって経費ってどれだけかかりましたか。

議長（勝山 正）

丸山総務課長。

（総務課長「丸山寛人」登壇）

総務課長（丸山寛人）

すみません。現時点今はそういった手元に資料がございませんのでお答えできません。

議長（勝山 正）

山本議員。

再質問

4番 山本隆樹 議員

本当にね、立派な冊子です。これかなりね、2年間かけて今の地域づくりの懇談会を14回までやって作り上げた、これ経費って、すごい労力から、しっかりしたものに出来上がってるんですよ。これがね、ちょっと自分としては残念だなんていうか、これだけの経費を多分やり切れてたら、もっと違った結果をこの村はできてたんじゃないかっていうくらいのちゃんとしたものです。

今回、こういう形で反省せざるを得ないところはあるかもしれませんが、第7次がこれからスタートします。本当にそういう形で、本当にみんながね、2年間かけて10何回もみんな村民が集まって話し合った結果、この10年間の今の現状です。そういうことをしっかりと、村がやっぱり支え、指導する、そういう村民と行政になっていくことを、やはり真剣に考えていただきたいということで、最後の質問となります。

議長（勝山 正）

日墓村長。

（村長「日墓正博」登壇）

村長（日墓正博）

山本議員のおっしゃるとおり、第6次の検証をしながら、そしてまた、第7次はやはり実効性のある実施計画になるようしっかりと、また皆さんと協議をしながら進めてまいりたいと思いますので、よろしく願いいたします。

議長（勝山 正）

以上で、山本議員の質問は終わります。

（終了 午後3時13分）

議長（勝山 正）

以上で本日の日程は終了しました。

この際申し上げます。

本日の会議における発言について、後日、会議録を調査し、不適切発言があった場合には、議長において善処いたします。

本日はこれで散会します。ご苦勞様でした。

(散会 午後3時14分)